

「2011年新入社員意識調査」より

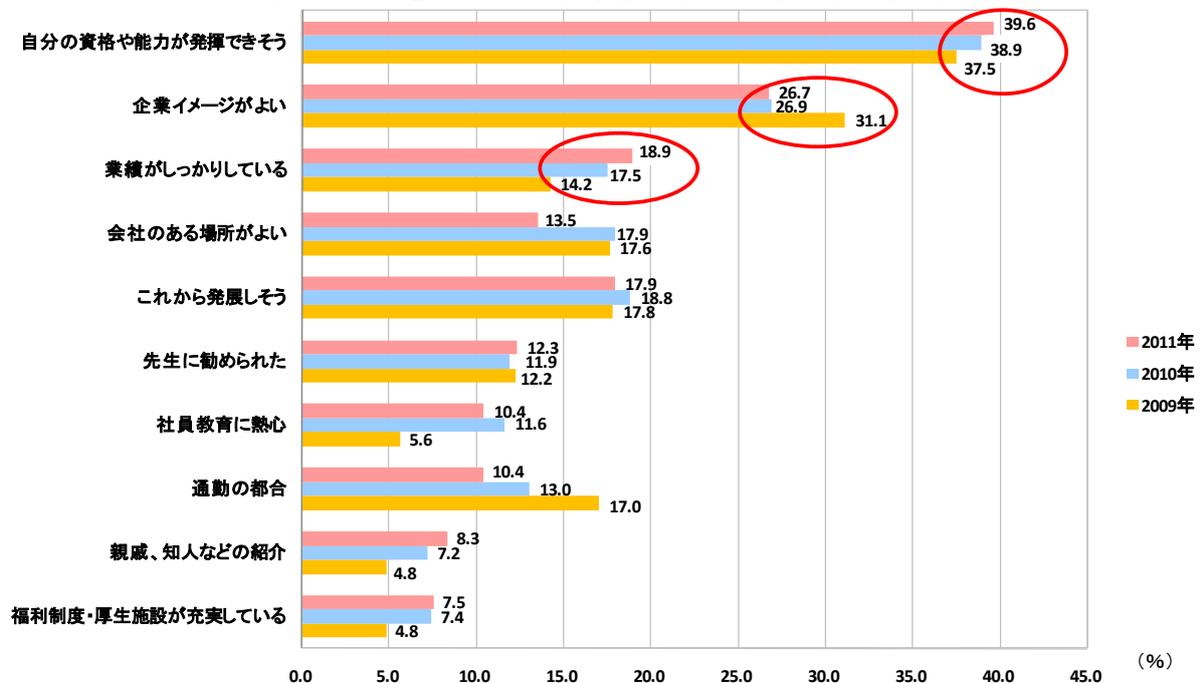
自分の能力が発揮できる会社で、与えられた仕事は一生懸命に

昨年に引き続き、今年も景気の先行き不透明感から、新規採用をしなかった会社が多かった。3月末のぎりぎりまで就職活動を行っていた学生は少なくない。このような長く厳しい就職活動を終え、県内でも多くの新入社員が社会人生活の第一歩を踏み出している。当社では毎年3月から4月にかけて、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。今年の調査結果（有効回答数 645名、うち男性 350名、女性 294名）から、今年の新入社員の意識を探ってみたい。

入社の一動機として「自分の資格や能力が発揮できる」が3年連続増

『入社を決めた主な理由は何か』との問いには(図1)、「自分の資格や能力が発揮できそう」が最も多く、3年連続でトップになった(37.5%→38.9%→39.6%)。また、「業績がしっかりしている」も同じく増加傾向だが(14.2%→17.5%→18.9%)、「企業イメージが良い」は減少傾向(31.1%→26.9%→26.7%)。企業のイメージではなく、自分の能力が存分に発揮できる企業で、かつ、業績が安定している企業を選び、入社を決めているようだ。

図1 入社を決めた主な動機 上位10項目(複数回答)



「責任感」は減少し、「忍耐力」が増加

『社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの』との問いには（図2）、「協調性」が27.4%で最も多く、次いで「意欲・やる気」（23.7%）となった。昨年2番目に多かった「責任感」は低下し（24.9%→22.9%）、「忍耐力」が昨年より0.4ポイント上昇した（22.5%→22.9%）。また、「体力」と「継続力」が大きく上昇したことも特徴的だ（12.8%→15.3%、13.2%→14.5%）。今年も「協調性」が依然多いものの、厳しい就職活動が続いているためか、「忍耐力」や「継続力」を自信とする新入社員が増えているようだ。

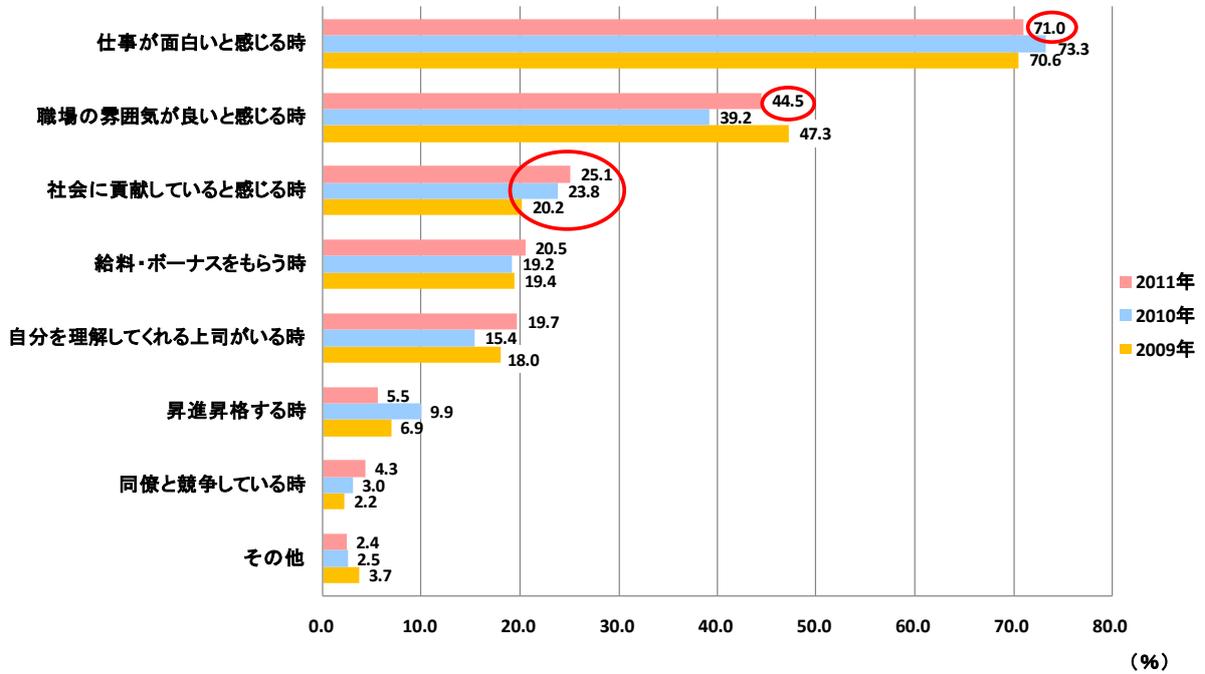
図2 あなたが自信を持てるもの 上位10項目（複数回答）



「社会に貢献していると感じる時」が増加傾向

『あなたはどのような時に働きがいを感じるか』との問いには（図3）、「仕事が面白いと感じる時」が71.0%、「職場の雰囲気が良いと感じる時」44.5%となった。また、「社会に貢献していると感じる時」は3年連続増加している（20.2%→23.8%→25.1%）。企業のCSR（企業の社会的責任）活動が当たり前になってきている今日では、働く社員も、社会に貢献している時に働きがいを感じる傾向のようだ。

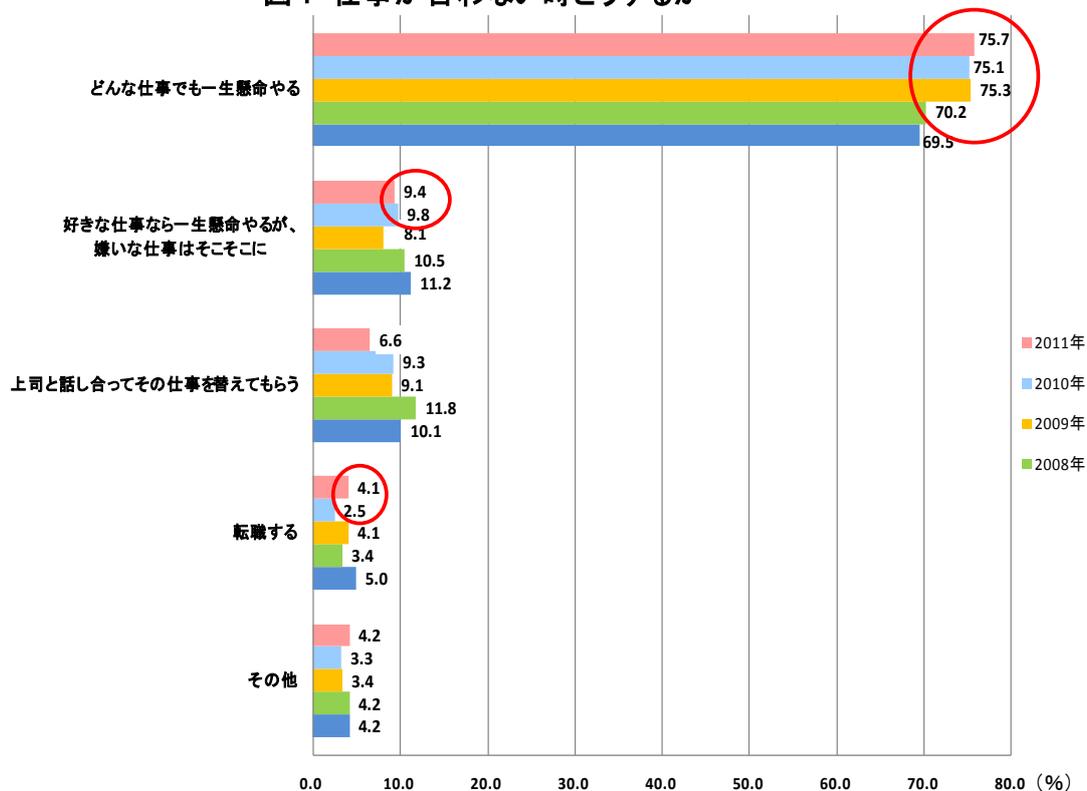
図3 どのような時に働きがいを感じるか



仕事は「どんな仕事も一生懸命に」、合わない時は「転職」も

『仕事が合わない時どうするか』との問いに対しては（図4）、「どんな仕事でも一生懸命やる」と答えたのが75.7%となり、4年間連続で7割を超えている。昨年は増加傾向であった「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこの」は9.4%となり、昨年（9.8%）より0.4ポイント低下した。また、「転職する」が4.1%で、昨年よりも1.6ポイント上昇した。

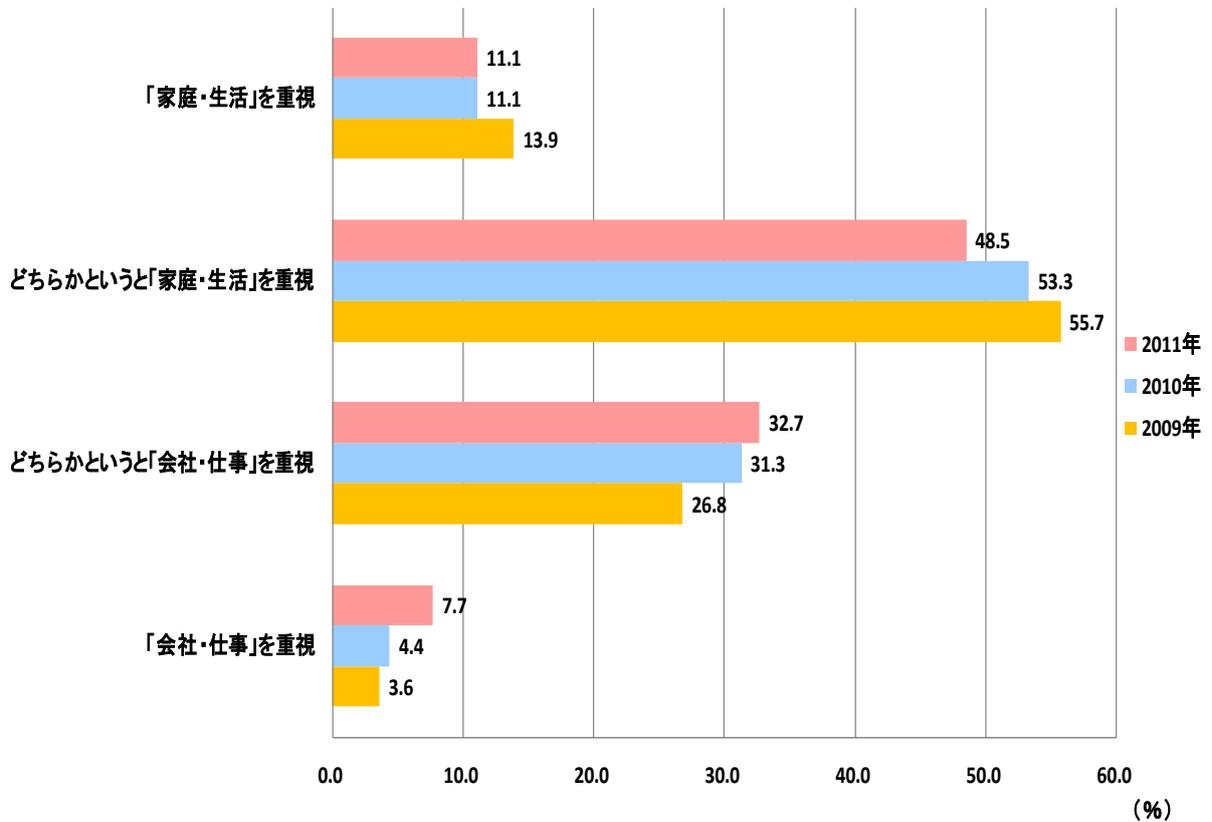
図4 仕事が合わない時どうするか



「会社・仕事」を重視するが増加

『「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか』との問いには（図5）、「家庭・生活」を重視と回答した人は59.6%で、前回（64.4%）よりも4.8ポイント減少した。一方、「会社・仕事」を重視と答えた人は40.4%で、前回（35.7%）より4.7ポイント増加した。「家庭・生活」よりも「会社・仕事」を重視する人が増加傾向である。

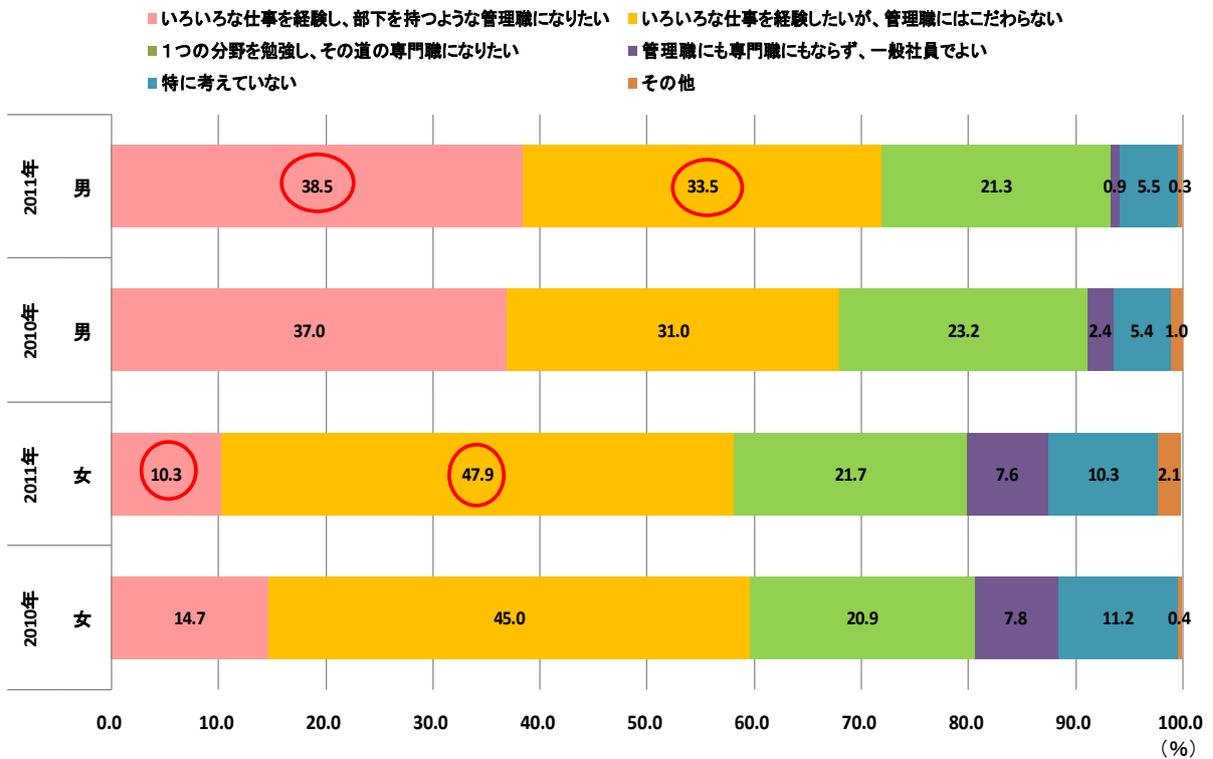
図5 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか



「いろいろな仕事を体験したい」が増加

『社会人としてどのような道を進みたいか』との問いに対しては（図6）、「いろいろな仕事を体験し、部下を持つような管理職を目指したい」と回答したのは男性38.5%、女性は10.3%となり男女で大きく差が出る結果となった。また、「いろいろな経験をしたいが、管理職にはこだわらない」は男性33.5%、女性47.9%という結果で女性の回答数が少し多い結果となった。また、「いろいろな仕事を体験したい」男性の割合が昨年より4.0ポイント多いことがわかった。女性は、いろいろ経験を積みたいが、管理職にはこだわらないという姿勢のようだ。

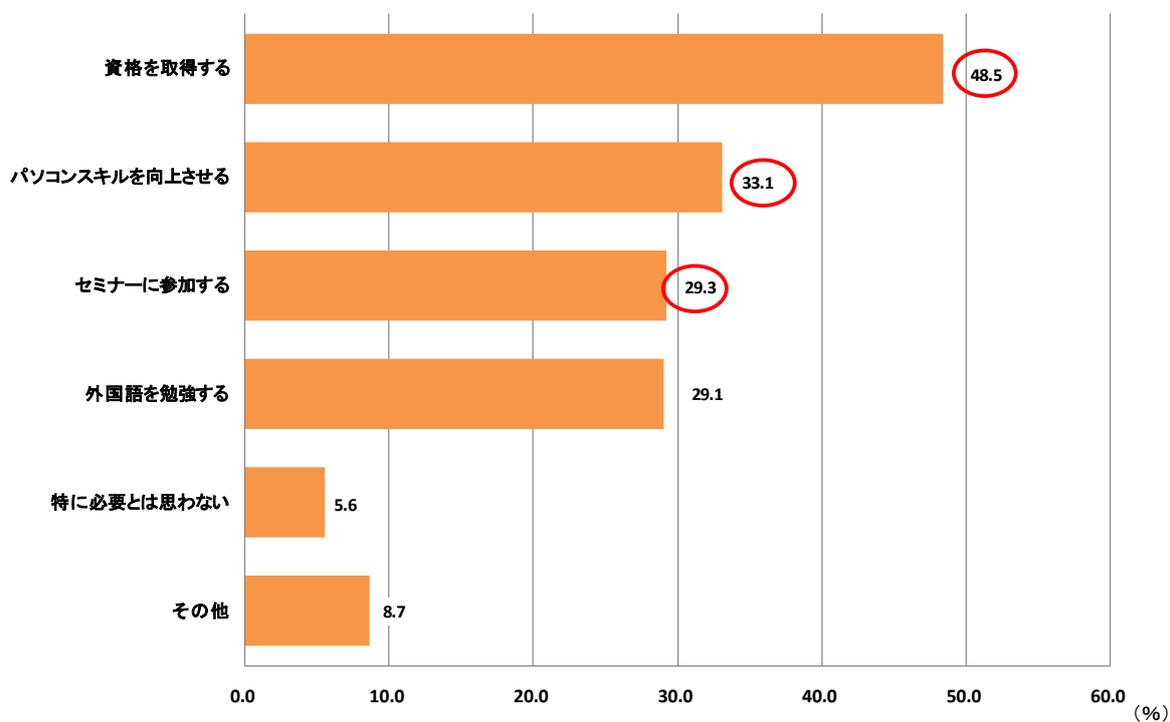
図6 社会人としてどのような道を進みたいか



資格を習得し、自分自身の能力アップを目指す

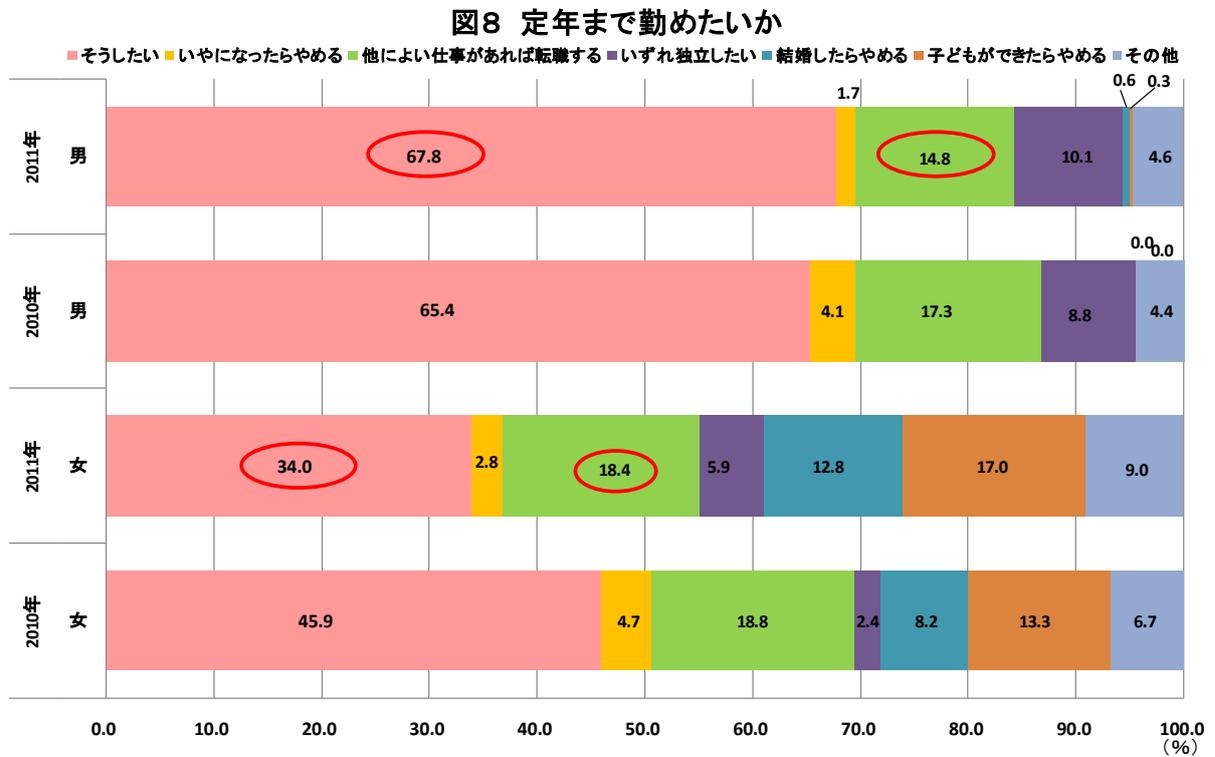
『自分自身の能力アップのためにどのような勉強が必要か』との問いには（図7）、「資格を習得する」が48.5%で最も多く、次いで「パソコンスキルを向上させる」（33.1%）、「セミナーに参加する」（29.3%）と続いた。資格は建築士や看護師など、それぞれの仕事に関わる資格が多かった。また、外国語は最も多かったのは「英語」で、次いで「中国語」となった。

図7 自分自身の能力アップのためにどのような勉強が必要か



「定年まで勤めたい」は男女で違い

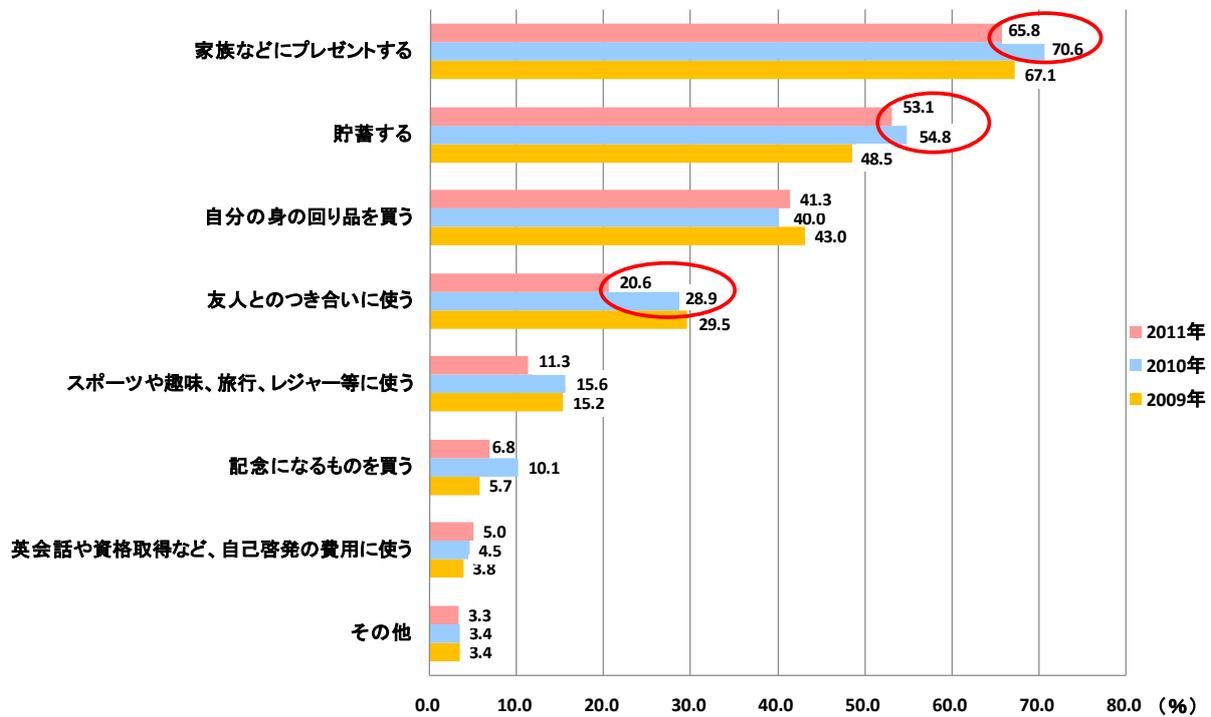
『定年まで勤めたいか』との問いには(図8)、男性 67.8%、女性 34.0%となり男女で大きく差が出る結果となった。男性は昨年 65.4%から 2.4 ポイント上昇したが、女性は昨年の 45.9%から 11.9 ポイントの大幅低下である。また、「他によい仕事があれば転職する」と答えた女性は 18.4%で、男性(14.8%)よりも多く、「子どもができればやめる」(17.0%)、「結婚したらやめる」(12.8%)と続く。一方、男性では「いずれ独立したい」が 10.1%で女性(5.9%)よりも多い結果となった。男性は定年まで働きたいと考えている一方で、女性は結婚や子育てを機に仕事をやめようと考えているようで、その割合は昨年よりも増えている。



初めての給料は家族へのプレゼントに使う

『初めての給料の使い途は何か』との問いには（図9）、やはり「家族などにプレゼントする」が65.8%で、前回（70.6%）よりも4.8ポイント少ないものの依然多かった。また、「貯蓄をする」も53.1%で前回（54.8%）よりも1.7ポイント少ないが、2番目に多い結果となった。大幅に減少したのは「友人との付き合いに使う」で前回（28.9%）から8.3ポイント減少の20.6%となった。初めて貰うお給料はお世話になった人へのプレゼントなどに使いたいと考えているようだ。

図9 初めての給料の使い途



理想の上司は今年も「イチロー」と「天海祐希」

『理想とする上司像を有名人に例えると』の問いには（表）、男性の上司としては、「イチロー」（男性 45 人、女性 22 人）が 6 年連続で 1 位となった。女性の上司でも女優の「天海祐希」（男性 12 人、女性 43 人）が 2 年連続の 1 位となった。「その有名人を選んだ理由」では、「イチロー」は、「率先して手本を見せてくれそう」が 29 人で最も多く、次に「頼りになりそう」が 24 人で続いた。「天海祐希」を選んだ理由は、「仕事ができそう」が 26 人で最も多く、「頼りになりそう」が 23 人で 2 番目に多い回答となった。自分の手本となるような仕事のできる先輩で、困っている時に頼りにできるような上司像が理想のようだ。

表 理想とする上司

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	67	1	天海祐希	55
島田紳助	25	2	真矢みき	34
所ジョージ	19	3	和田アキ子	23
明石家さんま	14	4	篠原涼子	19
星野仙一	12	5	江角マキコ	16

「忍耐力」を活かし、継続していくことで仕事へのやりがいを見つけてもらうことが重要

昨年に引き続き厳しい就職活動を勝ち抜いてきた新入社員は、企業イメージではなく、自分の能力や資格を十分に発揮できる、かつ、業績の安定している会社で、与えられた仕事はどんな仕事も一生懸命にやるという前向きな姿勢である。その一方で、女性は結婚などの人生の転機があれば仕事をやめようと考えている新入社員が昨年よりも多い。これから作り上げていく社会人生活の中で、苦勞することも多いと思われるが、持ち前の協調性や忍耐力を活かし、与えられた仕事の中にやりがいを見つけてほしいと願う。そして、そのような新入社員の成長を温かく見守っていききたい。

しがぎん経済文化センター

山西 麻美